

【特集】 館山公園整備事業  
館山を  
魅力あふれる公園に



間伐された木材は、階段づくりなどに利用されます。



今年度間伐が行われた部分(右下に見えるのが「手・まめ・館」)



もりづくり100年委員会では、館山公園の整備計画を始め、鮫川村の将来の森づくりが検討されています。



森林環境学習で、きのこの植菌に挑戦する子どもたち



上空からみた館山(中央部分)



【赤坂城跡図(村史より抜粋)】  
館山は、室町時代から戦国時代にかけて赤坂氏により築かれた赤坂城の跡地で、広場になっている山頂部(標高482m)の本郭(ほんぐるわ)より放射状に伸びた尾根に沿って、小郭が階段状に築かれた跡が現在も残っています。  
赤坂城は、浜通りと中通りを結ぶ商品流通の中継地となっていた赤坂宿や新宿などの町場を軍事的に抑えるために築かれたと伝えられ、豊臣秀吉の奥州仕置(1590年)により破却されて赤坂氏がこの地を去るまで存在していました。

【特集】 館山公園整備事業  
館山を  
魅力あふれる公園に

荒廃が進む里山の景観

豊かな自然の中でも田んぼや雑木林などの里山の景観は、農林業の営みによって維持されるため、自然環境との共生の原点であるといえます。里山の原風景を残した鮫川村でも、農業経営者の高齢化や後継者不足など、時代の変化により耕作放棄地や荒れた山林が増え続けています。

その一方で、中山間直接支払交付金事業などにより、田や畑などの景観を維持する取り組みも行われていますが、山林については管理が十分とはいえず、里山の景観の荒廃がますます加速するという問題に直面しています。

同じように村の中心部に位置する「館山」も手入れが十分に行き

届かず、整備されたアスレチック施設なども老朽化し、利用者も減っていました。

そこで、地域発展のシンボルとして、景観を整備するとともに、人が集まる魅力ある地域づくりを進めていくために「館山公園整備事業」が始まりました。

整備の基本となる三つの方針

公園づくりは、「地域住民および都市住民の参画による体験学習型の森づくり」、「美しい里山の風景と食する森づくり」、「元気の出るセラピーの森づくり」の三つを基本方針に行われます。

一つ目の「地域住民および都市住民の参画による体験学習型の森づくり」では、これまで村内各地

■問い合わせ  
村農林課 ☎ 49-3114



# 館山を 魅力あふれる公園に



—なぜ、今、館山公園の整備が必要なのでしょうか？  
平成16年7月から8月にかけて、村の将来像を描く「鮫川村振興計画」をつくるために、地区ごとに懇談会を開きました。この懇談会は、多くの村民の要望を振興計画に反映させるために開いたものでした。私は、村内各地にある自慢の名所・名物や生産物などを掘り起こし、それに磨きをかけて村

**館山公園の整備を  
自立をめざす希望のシンボルに**  
—なぜ、今、館山公園の整備が必要なのでしょうか？  
平成16年7月から8月にかけて、村の将来像を描く「鮫川村振興計画」をつくるために、地区ごとに懇談会を開きました。この懇談会は、多くの村民の要望を振興計画に反映させるために開いたものでした。私は、村内各地にある自慢の名所・名物や生産物などを掘り起こし、それに磨きをかけて村

—整備によって期待される効果にはどのようなものが考えられますか？  
現在の館山は大部分が杉林に囲まれており、全体的に暗いイメージがあり、村民の人たちもあまり近寄らなくなっています。この暗いイメージを払拭させるために、桜、コブシ、モミジ、ツツジなどの花木・広葉樹に樹種の転換を図り、一年中花が楽しめる、人の出入りがある農村公園を整備する計画です。子どもから高齢者まで、一年中楽しく遊び、散策できる環境にしていきたいと考えています。併せて、村中心部の商店会

**中心部の振興を図り  
全村公園化構想の拠点に**  
—整備によって期待される効果にはどのようなものが考えられますか？  
現在の館山は大部分が杉林に囲まれており、全体的に暗いイメージがあり、村民の人たちもあまり近寄らなくなっています。この暗いイメージを払拭させるために、桜、コブシ、モミジ、ツツジなどの花木・広葉樹に樹種の転換を図り、一年中花が楽しめる、人の出入りがある農村公園を整備する計画です。子どもから高齢者まで、一年中楽しく遊び、散策できる環境にしていきたいと考えています。併せて、村中心部の商店会

民所得の向上を図りたいと考えておりました。この懇談会の中で、多くの村民の方々から、村の中心部の振興のために、「館山」を農村公園として整備し、潤いと賑わいのある地域に再生すべきではないかという提案がありました。村として、この提案を活かし、館山公園整備を「自立をめざす希望のシンボル」として位置づけ、計画から実施まで村民参加による整備をめざそうとしたものであります。

—それでは、整備に際して村民の関わり方はどうでしょうか？  
自立の村づくりは、さまざまな困難・課題を乗り越える「知恵がなければできません。館山公園は、村民の人たちに愛着を持ってもらえる公園にしたいと考えています。昨年8月に発足しました「もりづくり100年委員会」を中心に、村民手づくりの公園にしたいと思っています。今年3月には、桜、モミジ、ツツジなどの植え付けを計画しています。多くの村民の方々のご参加・ご協力をお願いいたします。

**村民手づくりの公園にしたい**  
—それでは、整備に際して村民の関わり方はどうでしょうか？  
自立の村づくりは、さまざまな困難・課題を乗り越える「知恵がなければできません。館山公園は、村民の人たちに愛着を持ってもらえる公園にしたいと考えています。昨年8月に発足しました「もりづくり100年委員会」を中心に、村民手づくりの公園にしたいと思っています。今年3月には、桜、モミジ、ツツジなどの植え付けを計画しています。多くの村民の方々のご参加・ご協力をお願いいたします。

の振興を図りたいと考えております。また、ここを拠点に、江竜田の滝・鹿角平観光牧場・天狗橋・滝・火打石・二段田の桜・落合のモミジ、それから現在中山間事業や元気づくりモデル地区事業で取り組んでいる各集落の事業がネットワークでき、全村公園化構想の道が開け、村を訪れる観光客が一気に増えると思われれます。



**村の歴史に触れられる場所にもりづくり100年委員会委員(村文化財保護審議会委員)**  
あおとりょういち  
青戸良一さん(富田字前沼)

館山は、お城が戦争によって壊されたわけではないので、郭の形や通路がそのまま残る貴重な場所と言えます。しかし、手入れをせずにいると地形が変わってしまう恐れもあったので、今回の館山公園整備は跡地の保存の面からもいい機会だと思います。館山は由緒のあるところなので、村の歴史に触れられるみんなの癒しの場所になってほしいと思います。



**みんなで作る公園にもりづくり100年委員会委員**  
みずの はるお  
水野春雄さん(赤坂中野字宿ノ入)

鮫川村は自然に恵まれていて、村内にはいろいろな景勝地がありますが、中心部には憩いの場がなかったと思います。館山公園は、1年を通して四季折々の美しさに触れられる憩いの場として、子どもからお年寄りまで誰もが楽しめる公園になってほしいと思います。また、できるだけ多くの方が整備に関わって、みんなで作った公園になってほしいですね。



館山の整備計画模型 (役場村民ホールに展示)

## 森林環境税を活用した 公園づくり

今回の整備計画の作成にあたっては、東京農業大学の専任講師である入江彰昭氏の協力を得ながら進められています。  
次に、「美しい里山の風景と食する森づくり」では、段々の地形的特徴を生かし、間伐や転換植栽(花見や紅葉が楽しめる、実のなる木を植栽)を行い、鮫川村ならではの美しい里山風景の森づくりを目指します。  
三つ目の「元気の出るセラピーの森づくり」では、間伐により、木漏れ日が差し込む明るい森となるため、山野草やきのこなどの恵みを楽しむことができ、さらに安心や安全、癒しを求めて訪れる人が健康になれる森づくりを行います。

## 森づくりのための人材育成に 森林環境学習などを実施

また、全ての市町村が継続的に取り組む事業である「基本枠」として、森づくりに対する村民の関心を高め、地域の森づくりを推進していく人材を育成するため、もりづくり100年委員会を昨年8月に設置しています。委員会は、林業従事者や林業学識経験者などで構成され、これまでに館山公園

整備には、平成十八年度から始まった森林環境基金事業を活用します。この森林環境基金事業は、森林を共有の財産として保全し、健全な状態で次世代に引き継ぐため、福島県が導入した森林環境税を活用して行われる事業で、県と市町村がそれぞれ事業を行います。  
このうち村では、市町村独自で事業を提案し、重点的に取り組む「重点枠」を活用して館山の整備を進めています。今年度は、「手・まめ・館」の後ろ約一・一畝の間伐を実施。間伐により現れてきた段々の地形を活かし、開花時期の異なる桜や色とりどりのモミジ類を植える予定で、三月下旬にボランティアによる植樹が行われます。

森林環境学習では、総合的な学習の時間などの授業の時間を利用して、村や県、林家などが協力して「炭焼き体験」や「きのこの植菌作業」、「森林や河川などの生き物観察」などを学校単位で行っています。